



既存の板戸を再利用したリビングダイニング空間



全体が引き込める建具に改造



デッキに面する開放的な浴室



外部壁は、漆喰左官仕上げ

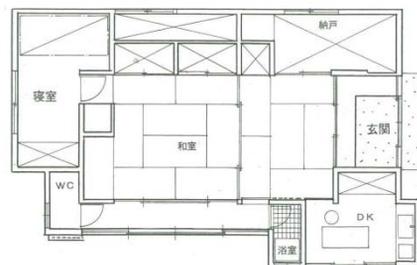


▲改修前の外観

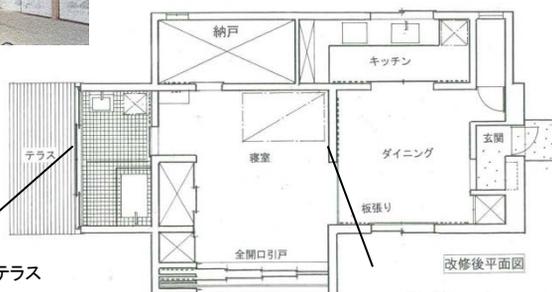
所在地 千葉県酒々井町
 用途 専用住宅
 現況 在来工法・木造平屋建
 床面積 71.52㎡
 改装後 床面積 62.7㎡
 完成 2006. 12
 施工 大野工務所

「酒々井の家」は、戦後間もない昭和30年頃の平屋建て瓦葺きである。依頼主は、開放的で明るい東南アジアの風土や住まいに愛着があり、現代的なジャパネスクとの調和を求められた。改修前の住まいは、和室が2間、4畳ほどの台所、半坪の浴室、小寝室、納戸など床面積は21坪程である。デザインはダイニング兼居間と寝室を板の間のワンルームとし、天井を高くし、当時の丸太の梁組みを見せ、必要に応じ引戸で部屋を間仕切れるようにした。また庭とつながる広いバスルームを希望され、外部デッキと一体化する全面開放型の4畳分のスペースを確保した。玄関正面は漆喰仕上げのシンプルな外観とし、内部の壁はすべて漆喰左官仕上げとした。また、様々な事情により、工務店のボランティア的な仕事となり、既存の建具を可能な限り再利用し、建具職人ではない手作りで対処した。依頼主もいくつか設備機器や備品を自ら購入、調達し、現場工事に協力された。簡易ではあるが予定外のデッキ、駐車場、玄関アプローチも工務店の好意でつくられた。

改修前



改修後



▲改修前の和室

開放的な浴室とデッキテラス

間仕切り壁による一体性



リビングダイニングの連続空間としての寝室を見る